

# 牟岐地区におけるメガイ・マダカアワビの漁獲物調査

天真 正勝・一ノ宮 誠・宮本 孝則\*・和田 隆史\*

牟岐地区は地域重要資源調査事業でメガイ・マダカアワビの殻長制限を順次引き上げ、平成6年に11cmに設定した牟岐地区の両アワビについて漁獲物調査を牟岐東及び牟岐町漁協の海士会とともに実施したので、その結果を報告する。

## 方 法

平成10年3月から8月のアワビ漁期間にほぼ週に一回の頻度で、牟岐東及び牟岐町漁協にて漁獲されたメガイ・マダカアワビについて、出荷までの間、出荷籠に保管されている両アワビのうち、選別されていない籠の分についてその殻長をパンチカードで測定するとともにグリーンマークによる人工種苗の混獲率調査を実施した。

## 結果及び考察

測定個数は表1に示したようにメガイアワビ280個、マダカアワビ24個であった。そのうちメガイアワビのサンプル中に16個の放流貝と思われる個体が見いだされ、混獲率は5.7%であった。

表1 平成10年度 メガイ・マダカアワビ測定数と放流貝の混獲率(牟岐地区)

	測定個数	放流貝	混獲率(%)
メガイアワビ	280	16	5.7
マダカアワビ	24	0	0.0

平成10年に測定された殻長組成をメガイアワビは図1に、マダカアワビは図2に示した。メガイアワビのモードは110~120mmにあり、その比率は43.6%であった。そして、殻長が大きくなるにつれ漸減しているが、160mm以上の大型個体も2.8%出現している。マダカアワビは測定個数が少ないが、そのモードもメガイアワビ同様110~120mmにある。また、120~160mm以上の比率はメガイアワビと異なり、いずれの区間でも10%以上となっている。

また、表2及び3に平成7年からのメガイアワビ及

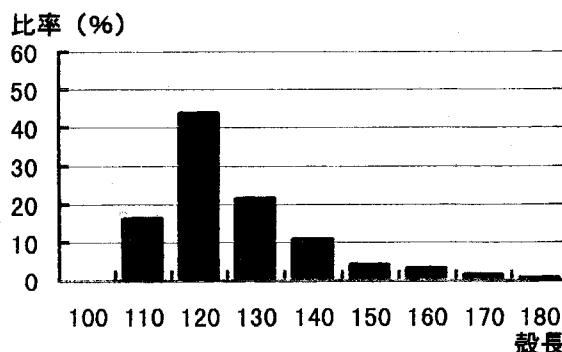


図1 平成10年度 メガイアワビの殻長組成(牟岐地区)

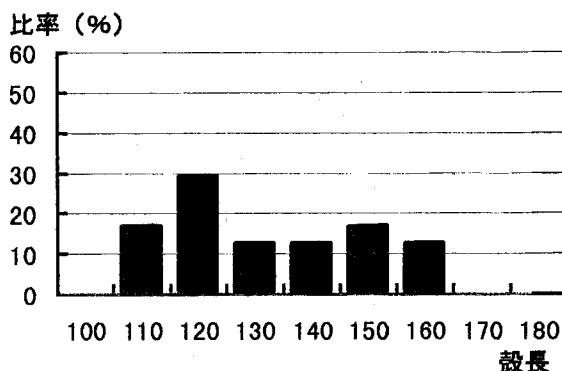


図2 平成10年度 マダカアワビの殻長組成(牟岐地区)

びマダカアワビの殻長組成の度数分布表を示した。平成10年は過去3カ年より測定個体数は大きく減少しているが、そのなかでメガイアワビは平成7、8年は110~120mmの殻長制限を少し越えたサイズが50%以上占めていたが、平成9年以降は40%前後となり、130~140mmの比較的大型貝の割合が増加しているのが伺える。一方、マダカアワビは平成7、8年は110~120mmの割合が45%を越えていたが、平成9年以降はその割合は30%以下となっている。

本調査を通じて、当牟岐地区では両アワビの殻長制限の引き上げに伴い、漁獲サイズの大型化がみられるが、資源動向判断を行うため、今後も引き続き調査を行う必要があると思われる。

また、当地区ではメガイアワビ、マダカアワビはともに牟岐町水産資源培養センターで人工種苗生産され

\*：徳島県水産課

た稚貝放流が行われているが、その放流貝の判別についてはグリーンマークを確認するため殻表面の付着物を一個ずつ剥がして観察しているが、グリーンマークが不鮮明であり、明確に識別できない場合もあり、明確に放流貝を特定する手法の開発が必要と思われる。

表2 平成7～10年度 メガイアワビの測定個数及び殻長の度数分布（牟岐地区）

（個、％）

年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
測定個体数	1,260	1,485	1,502	280
～100mm	0.0	0.1	0.1	0.0
～110	14.5	15.9	12.5	16.1
～120	56.0	53.0	39.7	43.6
～130	19.9	20.6	27.0	21.1
～140	6.5	7.5	14.6	10.7
～150	1.7	1.8	4.5	3.9
～160	0.7	1.0	1.2	2.9
～170	0.6	0.1	0.3	1.4
～180	0.0	0.0	0.0	0.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表3 平成7～10年度 マダカアワビの測定個数及び殻長の度数分布（牟岐地区）

（個、％）

年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
測定個体数	193	573	399	24
～100mm	0.0	0.0	0.0	0.0
～110	6.7	13.1	5.3	16.7
～120	45.6	46.6	28.8	29.2
～130	17.6	24.3	32.3	12.5
～140	13.5	9.1	21.3	12.5
～150	7.8	3.7	8.8	16.7
～160	6.7	2.6	2.5	12.5
～170	1.6	0.7	0.8	0.0
～180	0.5	0.0	0.3	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0